

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

【協議会役員】

- ①各地区代表（地域の有識者）1名
- ②青少年育成協議会2名
- ③地域コーディネーター1名
- ④公民館代表2名
- ⑤PTA代表1名
- ⑥学校代表

(2) 協議会の内容

- ①家庭・地域・学校協議会委員決定4月
- ②教育方針の説明6月
- ③体育祭・文化祭参観9月
- ④学校評価と具体的な方策等2月

地域コーディネーター（2名）
 青少年健全育成鯖江市民会議役員
 同窓会役員

(3) 協議会における成果と課題

教職員の超過勤務問題について興味関心が高く活発な意見交換が行われた。来年度も時事問題を含めて話題提供となり得る資料を適切に提示していく。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- 各学年のキャリア教育を充実させ、実体験をもとに職業観や勤労観を構築する。
- ふるさとに誇りをもち、将来ふるさとに貢献しようとする生徒を育成する。

(2) 活動の実際

①社会で働いている人から仕事について学ぼう〈1年生の取り組み〉

1年生では身近なところから「働く」ということを考えられるように、地元の方を講師に招いてふるさとの仕事やその特徴について学んだ。まず、11月に地元の料亭の調理師を招いて、ふるさとで働くことの喜びと苦勞を話していただくとともに、ほとんどの生徒が未経験の魚のさばき方の実演と実習をクラスごとに行った。



また、12月から2月にかけて、幅広い

職業について知ることを目的にして、11種類の職業から興味のある2つを選択してPC等で事前に調べ、プリントアウトした資料をもって実際にお話を聞き、新聞にまとめ発表し合う職業講座を実施した。特に今年度は、鯖江市がSDGsに取り組んでいることもあり、目標の一つである「ジェンダー平等の実現」と関連して、性別にとらわれずに職業を考えていくことの重要性を学んだ。生徒は多様な職業とともに多様な生き方があることを学び、社会で働く上で必要な考え方を知ることができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

青少年健全育成鯖江市民会議役員、同窓会役員の2名

- ・卒業生から講師を招くということで、同窓会が連絡や企画立案に携わってくれた。
- ・職場体験においては、協力してくださる地元企業をお世話いただいた。

(4) 特に工夫した事項

今年度から鯖江市がSDGsに取り組んでいることもあり、特に目標5「ジェンダー平等を実現しよう」を意識した取り組みも取り入れた。

(5) 成果と課題

昨年度の清水氏の講演会に引き続き、今年度も本校卒業生である酒井麻里氏を招いて講演と演奏をしていただいた。中学生とより年齢が近く、中学時代の感覚も生徒と共通するものがあり、生徒の興味を引くには十分だった。一見華やかに見える世界だが、そこにいたるまでの努力と固い意志の必要性を話していただき、生徒たちには自分の将来を考えるよい機会になるとともに、大きな希望を持つことができた。

また、1・2年生を中心に多くの地域の方々とふれあい、指導していただく機会をもつことができた。教員が教室の授業では教えることができない、より実社会に即したような内容に生徒も興味をもって取り組んでいた。特に地域に根ざしたサービス業関係で体験をした生徒が多く、普段利用している商店等の努力や苦勞を肌で感じ、働く大変さを身近に感じていたようである。

課題としては、それぞれの取り組みを、飽和状態になっている年間行事計画のどこに入れるかということである。特に来年度は東京オリンピック・パラリンピックの影響で各種行事の時期がその前後に動いているものがあり、学校行事の組み方がより難しくなっている。感染症に関する状況も、今後の取り組みに大きく影響せざるを得ない。